

土砂災害は大雨や地震で起こります

大雨や地震は土砂災害の引き金になります。1時間での雨量である時間雨量が20mmを超えたとき、降り出してからの雨量が100mmを超えると危険です。特に地震のあとは地盤が緩んでいるので、雨が降ると土砂災害が起こりやすくなります。地域の危険箇所や避難場所をあらかじめ確認するなど、日頃からの備えが大切です。

●時間雨量20~30mmの雨量とは

どしゃ降りで、側溝や下水があふれ出します。小さな川が氾濫したり、がけ崩れや土石流が起こることがあります。

●降り出してから100mmの雨量とは

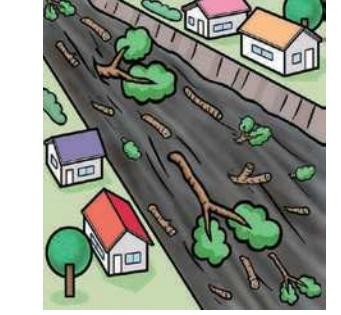
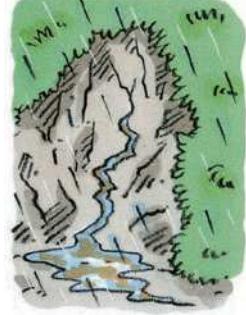
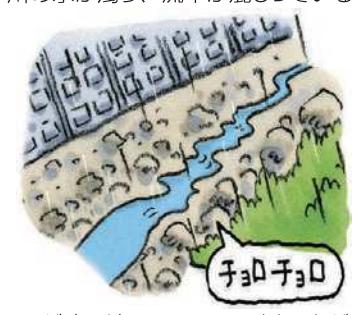
降った雨をたらいなどにためると、水が10センチの高さになる状態です。こんなときは、がけ崩れや土石流が特に発生しやすくなりますので、十分な注意が必要です。

このような場所は特に注意を

土砂災害は、急な斜面や谷の出口でよく起こります。また、たくさんの土砂が急に動くため、林があるからといって油断は禁物です。



このようなときは早めに避難してください

土石流の前兆現象	がけ崩れの前兆現象	地すべりの前兆現象
 <p>山鳴りがする</p>	 <p>がけから小石がパラパラ落ちてくる</p>	 <p>井戸の水が濁る</p>
 <p>川の水が濁り、流木が混じっている</p>	 <p>がけから急に水がわき出てくる</p>	 <p>地面にひび割れや段差ができる</p>
 <p>雨が降り続いているのに川の水が 急に減る</p>	 <p>がけの上の木が揺れたり、 傾いたりする</p>	 <p>池の水が濁つたり、 急に増えたり、減つたりする</p>

資料提供 NPO法人 土砂災害防止広報センター